



由利地域振興局農林部農業振興普及課 TEL:22-8354
NOSAI由利 由利農業共済組合 TEL:24-3301
JA秋田しんせい 営農生活部 米穀課 TEL:27-1601

～田植え作業について～

●田植え日の設定

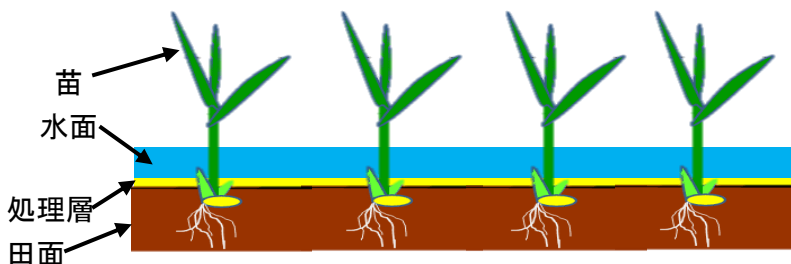
田植え作業は日平均気温で14℃以上、可能な限り日中最高気温が20℃以上の日に実施するようにして下さい。悪天候時(強風・大雨・低温)に田植えを行うと葉先枯れや白化現象等が発生し、活着に影響がでることから行わないで下さい。また苗の活着は気温と水温が共に高いほど良好となることから田植え直後は水深を4cm程度とし、保温効果を高める水管理をして下さい。その後は天候の良い日は浅水管理を行い分けつゝの発生を促して下さい。

●補植作業について

補植作業は除草剤散布後には行わないで下さい。初期剤や初中期一発剤は田面に処理層を形成し、地中から発芽してくる雑草を抑えることで効果を発揮しています。除草剤散布後に圃場内を歩いて補植作業を行うことは処理層を壊し除草効果を発揮できない状況にする事となります。歩いた跡から雑草が発生したり後発雑草も抑えられなくなるので注意して下さい。

※処理層のイメージ

散布をしてから水面を広がり2～3日かけて田面に落ち着き処理層を形成します。補植をするとこの層が壊れてしまいます。



●余り苗について

毎年、余り苗を畦畔に放置している圃場が散見されます。余り苗は放置しておくといもち病の発生源となりますので土中に埋没するか圃場から離れた場所へ撤去するようにして下さい。

●農薬の安全使用について

除草剤を使用する際は環境への影響を考慮し、散布後7日間は落水・かけ流しは絶対に行わないで下さい。

注意

- ①使用前にラベルを確認し、使用基準を守りましょう。
- ②農薬の飛散(ドリフト)に注意しましょう。
 - ・近隣の住宅や作物に配慮する。・風の強弱、散布方向に注意する。・養蜂場がある場合、蜂に害が無い様配慮する。
- ③使用後は後片付けをきちんとしましょう。
 - ・農薬は残らないよう使用量を調節する。・散布器具をきちんと洗浄する。
 - ・やむを得ず残った農薬を処分する場合は、不法に投棄・焼却せず適切に処理する。

●稲作メールマガジンについて

稲作メールマガジンをぜひご活用下さい。登録は右記のQRコードよりお願い致します。

